

## 保育者養成校における 学生の乳児理解への検討 (2)

池内昌美

### はじめに

子どもが自ら発達していく力を認め、その姿に寄り添いながら、子どもの可能生を引き出していくことは大人の責任であり、子どもが楽しんでいることを共に喜び、発達を援助することが大切である<sup>1)</sup>。保育所保育指針において子どもの発達過程はおおよそ8つの区分としてとらえられており、「保育士等は、子ども自身の力を十分に認め、一人一人の発達過程や心身の状態に応じた適切な援助」を行うことが重要であるとされている。そのためには、乳児の援助を行うものが乳児の発達をきちんと理解をして、適切な援助を行うことが大切である。

保育所保育指針は改定され、平成30年4月に施行される予定であるが、「保育所保育士指針に関する中間とりまとめ」において、乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性が記されている。そこでは、保育士に対して、「専門職である保育士によって、それぞれの子どもの発達過程に応じた「学び」の援助が、生活や遊びの場面で、適時・適切に行われることが重要である」と保育士の仕事の重要性が記されている<sup>2)</sup>。

近年、少子化が進み、出生数は昭和24年がピークの269万6638人がピークであったが、昭和50年以降は減少傾向となり、平成27年の出生数は10万5656人<sup>3)</sup>となり、ピーク時の約30分の1であった。子どもの数は減少しているにもかかわらず、保育所等利用率は年々増えている。平成21年の全体の利用率は、31.3%であり、1・2歳児は28.5%であったが、平成28年の全体の利用率は、39.9%であった。特に3歳未満児の利用が多く、0歳児は14.2%、1・2歳児の利用率は41.1%<sup>4)</sup>であった。つまり、平成21年と平成

28年とを比べて、保育所等の利用率が1・2歳児で倍近く増えたということである。これにより、保育所や保育園などで乳児の保育が多く求められていることがわかる。その背景には、女性の労働率が平成25年は62.4%であり、女性の半数以上が働いており、さらに子育て世代の35歳～39歳の女性が66.9%と多く働いていることが要因と考えられる。また、有配偶者の女性の就業率の増加<sup>5)</sup>も乳児の保育所利用率が増えた一因と考えられる。

幼児教育を学ぶ短期大学生の入学前の乳児とかかわりの経験の有無では、89%の学生が乳児と関わった経験が「ある」と回答をしていた。また、かかわった時期は「小学生」、「中学生」、「高校生」、「現在」と回答をしていた<sup>6)</sup>。しかし、幼児教育を学んでいる学生からは、乳児の保育がわからないという声が寄せられることが多い。そのため、幼児教育を学んでいる学生が乳児に対して持っているイメージや、乳児の保育に対してどのようなことでやりがいを感じているのか等を、実習に行ったことがない1年生と実習を全て終えた2年生に対してアンケート調査を行い、学生が保育者となった時に、乳児の保育への一助となることができるよう、今後の乳児保育を学ぶ学生への指導の手がかりとすることを目的とする。

## 方 法

2016年9月から11月に京都府内の短期大学で幼児教育を学んでいる学生1年生29人、2年生28人の合計57人に対して、乳児に対するアンケート調査を行った。主な調査項目は、1年生は、「短大入学前の乳児のイメージ」「短大入学前に乳児とかかわったことの経験の有無」「短期大学入学前に乳児とかかわったことの内容」であった。2年生は、「短大入学前の乳児のイメージ」「短大入学前に乳児とかかわったことの経験の有無」「短期大学入学前に乳児とかかわったことの内容」「短大入学後の乳児のイメージ」「短大入学後に乳児とかかわって大変だったこと」「短期大学入学後に乳児とかかわったことでのやりがい内容」であった。

## 結 果

### 1. 短期大学入学前の経験・時期・内容

#### 1) 乳児とかかわった経験の有無

短期大学入学前に乳児とかかわったことの経験の有無は、乳児とかかわったことが「ある」と回答した学生が1年生で23人、2年生が24人であり、合計47人であった（表1）。乳児とかかわったことが「ない」と回答した学生は1年生で2人、2年生で2人の合計4人であった。そのため、多くの学生が短期大学入学前に乳児とかかわった経験があることが確認された。

表1 乳児とかかわった経験の有無

	ある	なし
1年生	23	2
2年生	24	2
合 計	47	4

#### 2) 乳児とかかわった時期

短期大学入学前に乳児とかかわった時期は、1年生で「幼児期」が9人、2年生も9人であり、合計18人であった（表2）。「小学生」の時に乳児とかかわったことあるのは、1年生で18人、2年生で9人であり合計27人であった。「中学生」の時に乳児とかかわったことがあるのは、1年生で11人、2年生で12人であり、合計23人であった。「高校生」の時に乳児とかかわったことがあるのは1年生で16人、2年生で14人の合計30人であった。

表2 乳児とかかわった時期（複数回答）

	幼児期	小学生	中学生	高校生
1年生	9	18	11	16
2年生	9	9	12	14
合 計	18	27	23	30

### 3) 乳児とかかわった内容

短期大学入学前に乳児とかかわった内容は、「授乳」が1年生で17人、2年生で10人であり、合計27人であった(図1)。「抱っこ」は、1年生で27人、2年生で25人であり合計52人であった。「寝かしつけ」は、1年生で21人、2年生で15人であり、合計36人であった。「あやす」は1年生で20人、2年生で16人の合計36人であった。「おむつ替え」は1年生で17人、2年生で12人であり、合計29人であった。「着替え」は、1年生で18人、2年生で13人であり合計31人であった。「食事の援助」は、1年生で16人、2年生で10人であり、合計26人であった。「室内であそぶ」は、1年生で24人、2年生で24人の合計48人であった。「屋外であそぶ」は1年生で16人、2年生で14人であり、合計30人であった。「お散歩」は、1年生で14人、2年生で9人であり合計23人であった。「その他」は、1年生で3人、2年生で1人であり、合計4人であった。

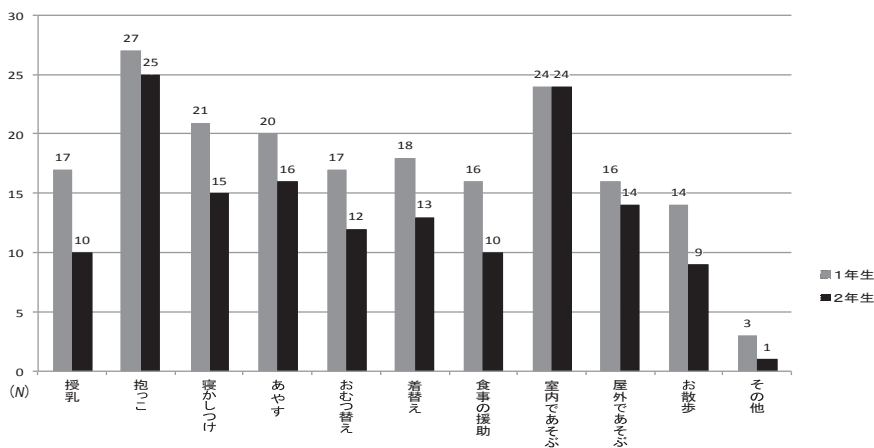


図1 乳児を援助した内容(複数回答)

## 2. 短期大学入学後の人数・感じたこと（大変さ・やりがい）

### 1) 乳児とかかわりがある人数

短期大学入学後に乳児とかかわったことがあるのは、1年生で12人、2年生で14人であり、合計26人であった（表3）。

表3 乳児とかかわりがある人数

	現在
1年生	12
2年生	14
合計	26

### 2) 乳児とかかわって大変だったこと（複数回答）

2年生が短期大学入学後に乳児とかかわって大変だったことは、「縦抱っこ」が4人、「横抱っこ」は、5人、「水分補給」は、3人であり、「授乳」が8人、「食事の援助」は7人であり、「検温」と「顔の清拭」が、それぞれ5人であり、「体の清拭」は、4人、「沐浴」7人で、「トイレ補助」は10人、「オマル補助」は7人であり、「オムツ替え（紙テープ）」は10人、「オムツ替え（布）」は17人であり、「オムツ替え（紙パンツ）」は11人であり、「着替え」は10人、「寝かしつけ」は15人、「赤ちゃんとのやりとり」は5人、「紙芝居」が3人、「手あそび」が8人、「読み聞かせ」が9人、「室内あそび」が10人、「屋外あそび」が9人、「園外散歩」が8人、「その他」が0人であった（図2）。

### 3) 乳児とかかわってやりがいを感じたこと（複数回答）

2年生が短期大学入学後に乳児とかかわってやりがいを感じたことは、「縦抱っこ」が12人、「横抱っこ」は10人、「水分補給」は3人であり、「授乳」は9人、「食事の援助」は7人であり、「検温」と「顔の清拭」、「体の清拭」は、それぞれ3人であった。「沐浴」と「トイレ補助」は、それぞれ5人、「オマル補助」は、4人であり、「オムツ替え（紙テープ）」は5人、「オムツ替え（布）」は7人であり、「オムツ替え（紙パンツ）」は8人であり、「着替え」と「寝

かしつけ」はそれぞれ14人、「赤ちゃんとのやりとり」は15人、「紙芝居」が3人、「手あそび」が9人、「読み聞かせ」が11人、「室内あそび」が21人、「屋外あそび」が16人、「園外散歩」が10人、「その他」が1人であった（図2）。

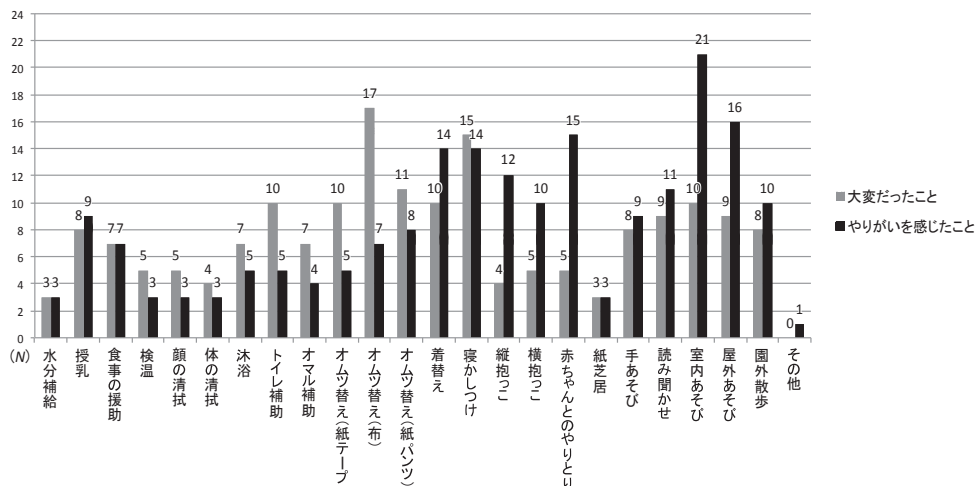


図2 乳児を援助して大変だったこと・やりがいを感じたこと

### 3. 短期大学入学前と入学後の乳児のイメージ

2年生が短期大学入学前に持っていた乳児のイメージは、「可愛い」が16人、「大変」は5人、「何もできない」は、2人であり、「うるさい」は2人、「元気」と「面倒くさい」がそれぞれ1人であり、「首が座っていない」と「癒し」、「寝る」はそれぞれ2人、「泣く」は3人であった（図3）。

2年生が短期大学入学後に持っている乳児のイメージは、「可愛い」が10人、「大変」は8人、「何もできない」と「うるさい」、「元気」、「癒し」、「寝る」はそれぞれ1人であり、「面倒くさい」、「首が座っていない」、「泣く」はそれぞれ0人であった（図3）。その他、入学前には記述が無かった乳児のイメージとして、「反応がある」、「難しい」、「泣くには理由がある」、「目を離してはいけない」、「思ったよりできることがある」、「母子相互作用」、「母親との

愛着」、「よく食べるよく飲む」、「多くを学びながら育つ」等が回答としてあった。

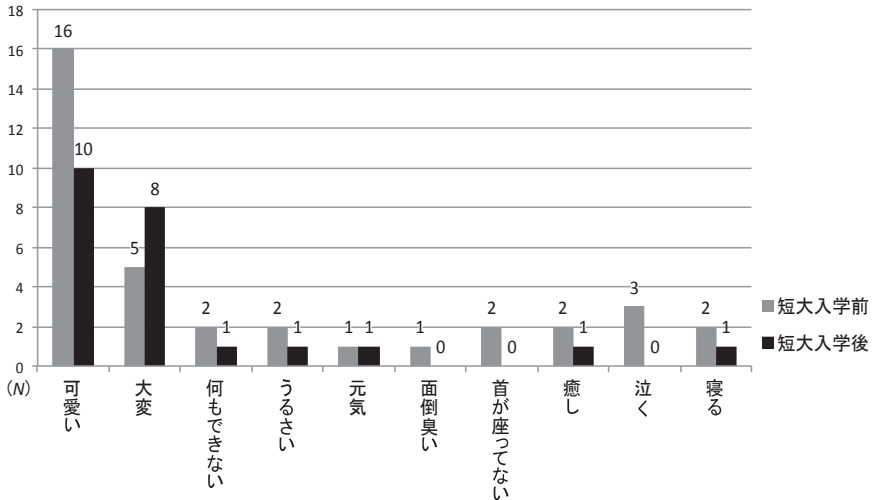


図3 短大入学前と入学後の乳児のイメージ

## 考 察

学生が短期大学入学前に乳児とかかわった経験の有無は、1年生と2年生ともに、半数以上の学生が乳児とかかわったことが「ある」であった。近年の日本は少子化が進行しているとともに、地域のかかわりが希薄となっている。しかし、それにもかかわらず、多くの学生が乳児とかかわった経験があったことは予想外の結果であった。

また、学生が乳児とかかわった時期は、1年生・2年生ともに幼児期から小学生、中学生、高校生の時期まであり、さまざまな時期において乳児とかかわったことがあったことが確認できた。そして幼児期、小学生、中学生、高校生の時期では、高校生の時期に1番多く乳児とかかわったと回答があった。かかわった乳児が学生のきょうだいであれば、学生が幼児期や小学生の時のかかわりが多く回答されると推測されるが、高校生の時期での回答が多

かったことから、高校生の時の職場体験での乳児とのかかわりや、実習などの授業の一環で乳児とのかかわる機会があったと推察した。また、進路を決める中学生や高校生の時期に乳児とのかかわった経験は、乳児を知り、興味を持つきっかけとなり、幼児教育へ進むきっかけの1つになったのではないかと推察した。

短大入学前に乳児とのかかわった内容は、1年生と2年生を合わせて1番多かったのが、「抱っこ」であった。次に多かったのが、「寝かしつけ」と「あやす」であった。また、「室内であそぶ」、「屋内であそぶ」も多かったことから、日常生活のお世話ではなく、直接学生が乳児とあやしたり遊んだりしていたことから、乳児に対して可愛さやあそぶ楽しさを感じて入学してきたと思われる。

短大入学後の乳児とのかかわりがある学生は約半数であった。少子化や乳児の保育所利用率の増加による乳児と接する機会が減少しているにもかかわらず、短大入学前だけでなく、短大入学後も乳児とのかかわりがある学生が半数以上であったのも予想外の結果であった。これは、「乳児保育」の担当教員が予想しているよりも、乳児とのかかわる機会が多い結果であった。そのため今後は、乳児とのかかわりをふまえた授業展開を考える必要がある。

実際に乳児と実習でかかわって大変だったことが、「オムツ替え」や「トイレ補助」、「着替え」、「寝かしつけ」等の保健の領域での内容が多かった。それに対して、やりがいを感じたことは、「室内あそび」や「屋内あそび」、「赤ちゃんとのやりとり」、「読み聞かせ」等の乳児とのかかわりでの内容が多かった。授業で学生たちは、赤ちゃん人形を使い、乳児のオムツ替えや、着替えの援助の方法を学んでいる。しかし、人形は動かないが、実際の乳児は動いたり、援助者の意図している動きをしてくれないため、実際の乳児のオムツ替えや着替えは学生の予想よりも大変であったと思われる。

保育所保育指針では、保育のねらい及び内容について次のように記されている<sup>1)</sup>。(1) 養護に関わるねらい及び内容として、① 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする ② 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせ



るようにする ③ 一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする ④ 一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。これにより、乳児の保育は養護と教育のどちらも重要であるが、抵抗力が弱く、感染症などの病気にかかりやすい低年齢の乳児では、養護をしっかりと行うことができる援助の方法を身につける必要がある。

また、やりがいを感じたこととして1番多かったのが、「室内あそび」であり、2番目に多かったのが「屋外あそび」、3番目が「赤ちゃんとのやりとり」であった。1番目から3番目までの全てで、乳児とのかかわりでやりがいを感じていたことから、短大入学前に乳児とかかわったことがある学生が多く、乳児とのかかわりは、大変さを感じるよりはやりがいがあると感じたとと思われる。

しかし、乳児の保育内容はあそびだけではなく、養護も大切であるため、養護でもやりがいを感じる必要がある。そのためには、「乳児保育」の科目だけでは乳児の援助の理解や習得には限界があるため、「子どもの保健」や他の科目と連携を取りながら、学生が大変と感じたことを、大変だけど楽しい・やりがいがあるとすることができる授業内容を検討していく必要であろう。

短大入学前の乳児のイメージは、1番多かったのが「可愛い」であったが、短大入学後の乳児のイメージは「可愛い」が減り、1番多かったのが「大変」であった。これは、短大入学後に実習を経験したことにより、乳児をより深く理解したとともに、援助の仕方で戸惑いや困難さを感じたためであろうと思われる。

保育所実習を経た学生が「乳児保育Ⅱ」で学びたいと思っていたことで最も多かったのが、「乳児との接しかた・関わり方」<sup>7)</sup>であった。乳児とのやりとりが、学生にとってやりがいを感じると同時に、難しさや戸惑いを感じたものであると思われる。しかし、乳児を含めた子ども一人一人の発達や個性は異なるため、授業内だけで乳児とのかかわりを学ぶことは難しい。保育者として重要であるのは、「保育に関する専門的知識・理解と技能・実践力の

統合」<sup>8)</sup>であり、そこから先は学んだ知識とともに学生自らが乳児とかかわって経験を積むことにより、より乳児を理解して技能・実践力が身についていく。今後は、保育者養成校として、学生が乳児とかかわることができる機会を提示したり、模擬保育などの機会を設けることにより、乳児との接しかたやかかわり方を学ぶことの検討が必要であろう。

赤ちゃんを育てることは、保育所や施設での保育と、家庭での養育とは基本的に同じである。しかし、家庭での養育と施設での保育との違いは、①集団の中で子どもを育てること ②それぞれの子どもの保護、養護に重い責任を負うこと ③子どもの成長に関するこれまで積み上げられてきたさまざまな知見を踏まえて、保育を計画し、その計画に沿って保育を展開し、よりよい保育を目指すこと ④それらの4点を限られた保育時間の中で仕事として行うこと<sup>9)</sup>である。家庭での養育は、乳児1人（あるいは2人・3人～以上）に対して母親1人であるが、保育所で乳児を保育することは、0歳児は乳児3人に対して保育者が1人、1歳児・2歳児の乳児の場合は、乳児が6人に対して保育者が1人の配置基準である。実際には、乳児も保育者もそれ以上の人数がひとつのクラスにいることが多く、朝から夕方、あるいは夜までの集団生活である。それが、家庭で赤ちゃんを育てるのと保育所で乳児を保育することの違いである。そのため学生は、入学前や入学後も乳児とかかわった経験があった場合であっても、集団における乳児を保育することの知識と技能を得ることも必要である。しかし実際には、1人で遊ぶことが多い乳児に対して、集団保育ができるようになることへ学生を導くことは難しさがある。

アンケートの対象となった学生は、「乳児保育」を半期15回の授業で学んでいた。その授業計画は、1. 乳児保育の制度 2. 乳児保育の基本 3. 保育所保育指針をもとに乳児保育の保育内容を具現化する 4. テキストをもとに乳児保育の保育内容を具現化する 5. 乳幼児の心身の発達 6. 乳児の理解 7. 赤ちゃんの事故とその予防 8. 援助の実際（あそび・体験など） 9. 援助の実際（手作りおもちゃ作成） 10. 援助の実際（手作りおもちゃ作成2） 11. 援助の実際（指導計画の作成1） 12. 援助の実際（指導計画の

作成2) 13. 援助の実際(指導計画とおもちゃの作成) 14. 乳幼児の事故とその予防 15. まとめ である。

しかし、「乳児保育」で取り入れている授業内容は、「子どもの心理学」や「子どもの保健」と重なっている内容も複数ある。各科目の担当教員が必要であると考えて授業に取り入れている内容であるが、同じ内容の授業を行うのであれば、内容が重なっている授業担当者と教員同士が連携を取り合い、授業内容を検討することにより、「乳児保育」や他の科目の充実につながると思われる。学生はまだまだ乳児とかかわる機会が少なく、保育では大変さを感じる事が多いのが乳児の保育であり、科目としても発達や保健の領域をも含めて学ぶことが重要であり、学生にとって、乳児保育は学ぶことが多く大変さを伴う科目である。しかし、学生が保育士となった時に発達の著しい乳児の保育をしっかりと知識、技術ともに学び、自信を持って乳児の保育ができるよう授業内容を展開し、指導を行っていくことが課題であろう。

## 謝 辞

本論文作成にあたり、アンケートにご協力をいただきました京都西山短期大学保育幼児教育コースの学生の皆様に深く謝意を表します。

## 【引用文献】

- 1) 厚生労働省編：保育所保育指針解説書，pp.38-39，2008.
- 2) 社会保障審議会児童部会保育専門委員会：保育所保育指針の改定に関する中間とりまとめ（平成28年8月2日），（2016年10月15日アクセス），2016年．[http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/matome.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/matome.pdf)
- 3) 厚生労働相：平成27年人口動態月報年計（概数）の概況（2016年10月15日アクセス），2015年．<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai15/dl/gaikyou27.pdf>
- 4) 厚生労働書：保育所等関連状況取りまとめ（2016年10月15日アクセス），2016年．[http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000098603\\_2.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000098603_2.pdf)
- 5) 総務省統計局：女性の就業率上昇～M字カーブの変化～，（2016年10月15日アクセス），

2016年. <http://www.stat.go.jp/data/roudou/tsushin/pdf/noll.pdf>

- 6) 辻 富士子：保育者養成校における乳児理解についての一考察 —堺市立保育所の乳児保育状況調査から—, プール学院大学研究紀要 (54), pp.247-259, 2013.
- 7) 野中千都：『乳児保育Ⅱ』の教授内容に関する一考察～学生によるアンケート調査より～, 西南女学院紀要 (12), pp.165-173, 2008.
- 8) 三好年江・石橋由美：授業「乳児保育Ⅱ」の模擬保育から学生が学んだこと, 新見公立短期大学紀要 (26), pp.151-160, 2005.
- 9) 鯨岡峻・鯨岡和子：よくわかる保育心理学, ミネルヴァ書房, pp.152-153, 2004.

## 【参考文献】

- 1) 萩尾ミドリ・池田可奈子・椎山克己：保育者養成校における子育て支援活動の実際と学生への教育的効果, 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 (34), pp.117-124, 2011.
- 2) 萩尾ミドリ：保育者養成校における「乳児保育」の意義と理解 —わかる授業を目指して—, 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 (33), pp.71-76, 2010.
- 3) 椎山克己・萩尾ミドリ：保育者養成校における子育て支援活動の意義について, 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 (32), pp.41-48, 2009.
- 4) 高橋紀代香・磯沢淳子・池川正也・福岡貞子：乳児の絵本の読み聞かせに関する一考察, 福祉臨床学科紀要 (3), pp.35-53, 2006.
- 5) 小屋美香：保育実習中の学生の乳児保育体験に関する研究, 育英短期大学研究紀要 (27), pp.33-44, 2010.
- 6) 菊池篤子：「乳児保育」に対する学生の意識調査 ～魅力と困難さに関する一考察～, 小田原女子短期大学紀要 (44), pp.24-34, 2014.
- 7) 大方美香：乳児保育における保育の計画, 大阪総合保育大学紀要 (4), pp.129-143, 2009.